

# 中・高校生の喫煙行動および喫煙に 対する態度と知識

東京大学教育学部健康教育学研究室 川 畑 徹 朗  
同 上 高 橋 浩 之  
国学院大学幼児教育専門学校 黒 羽 弥 生  
東京大学教育学部健康教育学研究室 高 石 昌 弘

## Smoking—the Behavior, Attitude and Knowledge of Junior and Senior High School Students

Tetsuro KAWABATA, Hiroyuki TAKAHASHI, Yayoi KUROHA  
and Masahiro TAKAISHI

The smoking behavior and related factors were studied in 1078 junior and senior high school students in five prefectures in Japan.

The results were as follows;

- 1) Forty per cent had tried smoking and 8 per cent were current smokers at the time of the inquiry.
- 2) While 71 per cent were found to have a negative attitude toward adolescent smoking, only 28 per cent had a negative attitude toward adult men's smoking.
- 3) Most of the subjects knew about the relation between cigarette smoking and lung cancer, but smaller numbers knew about the important role of cigarette smoking in causing chronic obstructive pulmonary disease, and even fewer knew about that in causing coronary heart disease.
- 4) The smoking behavior of the subjects was related to that of their parents and of their peers.

### 目 次

はじめに
I 方法
II 結果
III 考察
IV 結論
謝 辞

### はじめに

喫煙が関連する様々な疾病のうち、悪性新生物は脳血管疾患を抜いてわが国の死因のトップとなり、虚血性心疾患を初めとする心疾患による死亡もやがてこれに迫ろうとしている<sup>1)</sup>。いまや喫煙抑制対策は、わが国の健康

問題を解決していく上で最も重要な課題のひとつであるといっても過言ではない。なかでも青少年喫煙防止対策は、一度身についた喫煙習慣は容易には断ち難いこと、喫煙開始年齢が低いほど健康への影響が大きいことなどの理由により重要な意義を持っており、そうした青少年喫煙防止対策の一環として学校保健教育の果たすべき役割は大きい。しかし、先に筆者らが行なった調査結果によれば、現在の「喫煙と健康」に関する保健教育は、はなはだ不十分なものであるように思われた<sup>2)</sup>。そこで今回は「喫煙と健康」に関する授業の内容や方法を開発する際の基礎的資料を得ることを目的として、中学生および高校生の喫煙に関する行動、態度、知識などについて調査し、若干の知見を得たのでここに報告する。

調査は問題の性質上原則として無記名調査としたが、追跡調査のために一部の生徒については記名調査を実施

表1 調査対象校および調査実施クラス数

	学校 番号	学校所在地	学校種	調査実施クラス数											
				記名調査				無記名調査				合計			
				1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
中 学 校	101	神奈川県・川崎市	市立	1	1	1	3	2	2	2	6	3	3	3	9
	102	神奈川県・川崎市	市立	1	1	1	3	2	2	2	6	3	3	3	9
	103	東京都・足立区	区立	1	1	1	3	1	1	1	3	2	2	2	6
	104	静岡県・熱海市	市立	1	1	1	3	1	1	1	3	2	2	2	6
	105	東京都・町田市	私立	1	1	1	3	1	1	1	3	2	2	2	6
	106	東京都・葛飾区	区立	0	0	0	0	1	1	0	2	1	1	0	2
	合計				5	5	5	15	8	8	7	23	13	13	12
高 等 学 校	201	神奈川県・川崎市	市立・工業	1	2	0	3	1	2	0	3	2	4	0	6
	202	神奈川県・川崎市	市立・商業	1	1	0	2	1	1	0	2	2	2	0	4
	203	埼玉県・川越市	県立・工業	0	0	0	0	2	2	0	4	2	2	0	4
	204	埼玉県・川越市	県立・農業	0	0	0	0	1	1	0	2	1	1	0	2
	205	埼玉県・新座市	県立・普通	0	0	0	0	3	2	0	5	3	2	0	5
	206	埼玉県・川越市	県立・普通	0	0	0	0	2	2	2	6	2	2	2	6
	207	埼玉県・朝霞市	県立・普通	0	0	0	0	2	2	0	4	2	2	0	4
	208	東京都・世田谷区	私立・男子・普通	1	1	0	2	1	1	0	2	2	2	0	4
	209	東京都・府中市	都立・普通	0	1	0	1	0	1	0	1	0	2	0	2
	210	東京都・葛飾区	都立・農業	0	0	0	0	2	2	0	4	2	2	0	4
	211	東京都・足立区	都立・普通	0	1	0	1	1	1	0	2	1	2	0	3
	213	東京都・文京区	国立・普通	1	1	0	2	1	1	0	2	2	2	0	4
	214	千葉県・船橋市	県立・普通	0	0	0	0	1	1	0	2	1	1	0	2
	215	千葉県・船橋市	市立・普通	0	0	0	0	2	2	0	4	2	2	0	4
	合計				4	7	0	11	20	21	2	43	24	28	2

した。ただし、今回は無記名調査のデータのみを分析の対象とした。

## 1. 方法

### A. 対象

調査は、神奈川・埼玉・静岡・千葉・東京の中・高校生を対象として、1983年3月に実施した。表1には、調査対象校の所在地、校種、調査実施クラス数を示した。このうち、本論文で分析の対象となったクラスは、以下の手順によって選定した。

#### 1. 中学校

a 全学年において無記名調査を実施している学校を選ぶ。

b aの条件を満たす学校における無記名調査実施クラスのうちから、各学年1クラスずつ無作為に選び出し、分析対象クラスとする。

#### 2. 高等学校

a 1年・2年の双方において無記名調査を実施している学校を選ぶ。なお、調査時期が年度末であったため、3年生について調査が実施できたのは1校のみであった。したがって3年生は分析の対象から除外した。

b 地域の特性（大都市、中小都市）および学校の特性（普通A：平均的普通校、普通B：いわゆる進学校の普通校、職業：農業・工業・商業課程校）の分類上、できる限り偏りがないように学校を選ぶ。

c a、bの条件を満たす学校における無記名調査実施クラスのうちから、各学年1クラスずつ無作為に選び出し、分析対象クラスとする。

以上の手順にしたがって、最終的には中学校5校（計15クラス）、高等学校6校（計12クラス）を分析対象校（およびクラス）として選定した。

表2のa、bには、分析対象校とその地域特性、学校の特性、ならびに学年別・男女別回答者数を示した。

表2 分析対象校および回答者数

a 中学校

学校番号		1年	2年	3年	合計	欠席者数	喫煙に関する指導
101	男	22	22	21	65	1年：3 2年：不明 3年：7	
	女	17	19	17	53		
	計	40*1*3(1)*2	41	38	119*3 (1)		
102	男	20	24	18	62	1年：0 2年：3 3年：3	
	女	22	18	19	59		
	計	43*3	42	37	122*3		
103	男	21	18	21	60	1年：1 2年：4 3年：4	2・3年：前年度に全校一斉指導（タバコの害についてのフィルム視聴）
	女	20	13	19	52		
	計	42*3	35*3 (4)	40	117*3 (4)		
104	男	19	22	20	61	1年：不明 2年：不明 3年：4	2・3年：保健授業において授業書およびスライド（「さようならタバコ」）を用いて、3時間かけ指導
	女	19	16	17	52		
	計	39*3	38	37 (1)	114*3 (1)		
105	男	20	19	17	56	1年：2 2年：不明 3年：不明	
	女	20	17	22	59		
	計	40	36	40*3	116*3		
総計	男	102	105	97	304		
	女	98	83	94	275		
	計	204*3 (1)	192*3 (4)	192*3 (1)	588*3 (6)		

表中\*1の数値は有効回答数 \*2の（ ）内の数値は無効回答数である。したがって実際の回収数は \*1と \*2の和となる。

表中、男子回答数と女子回答数の和が、計欄の数値と一致しない場合(\*3)がある。これは、計欄の数値には、性別の記入のない回答も含まれているためである。

なお、調査実施日の欠席者数についてもできる限り調べた。その結果、欠席者が極端に多くて問題となるようなクラスはないと思われた。また、無回答の項目が多いもの5例（中学校）、回答内容に明らかな矛盾が見られるもの1例（中学校）、ふまじめな回答1例（高等学校）の計7例については分析の対象から除外した。その結果、最終的な有効回答数は1,078となり、そのうち性別の明らかなものは中学校男子304、中学校女子275、高等学校男子307、高等学校女子168となった。

B. 調査方法

調査は、各教室内で、授業時間等を利用して質問紙法によって実施した。なお、その際の指導はそれぞれの学校の教師がこれにあたった。

調査内容が、喫煙という微妙な問題なので、結果にできるだけ歪みが生じないように以下の配慮を担当の教師に文書で依頼した。

第1に、調査票の内容などについての説明は一切せず、回答の記入は生徒のペースにまかせること。また、

机間巡視をしないこと。

第2に、調査開始前に、回答を教師が見ないことを伝えること。また、調査終了後も生徒自身に調査票回収袋の封をさせるか、生徒たちの前で封をすること。

C. 調査内容

調査票は別添のとおりであり、これに含まれる調査内容は、以下の項目に分けられる。

1. 行動
  - a 喫煙の経験（Q42, S Q43）
  - b 現在の喫煙行動（S Q44, S Q45, S Q46, S Q47）
  - c 周囲の人々の喫煙行動（Q1, Q 4, Q 7, Q10, Q48）
2. 態度
  - a 家族の喫煙に対して（S Q2, S Q3, S Q5, S Q6, S Q8, S Q9, S Q11, S Q12）
  - b 未成年者および成人の喫煙に対して（Q13, Q14, Q16, Q17, Q18, Q19, Q20）

表2 分析対象校および回答者数

## b 高等学校

学校番号	地域の特性	学校の特性		1年	2年	合計	欠席者数	喫煙に関する指導
202	大都市	職業	男	19	20	39	1年：3 2年：1	
			女	22	20	42		
			計	41	41*3	82*3		
203	中小都市	職業	男	38	35	73	1年：1 2年：3	特別な指導はなし
			女	0	0	0		
			計	39*3	38*3	77*3		
205	中小都市	普通A	男	22	14	36	1年：不明 2年：7	全学年：ロングホーム ルームでスライド視聴 （「さようならタバコ」）
			女	22	21	43		
			計	44	35	79		
211	大都市	普通A	男	26	28	54	1年：1 2年：1	2年：学年集会で注意 指導
			女	12	13	25		
			計	44*3	42*3	86*3		
213	大都市	普通B	男	26	26	52	1年：1 2年：1	特別な指導はなし
			女	14	15	29		
			計	41*3(1)	42*3	83*3(1)		
214	中小都市	普通B	男	24	29	53	1年：2 2年：5	特別な指導はなし
			女	19	10	29		
			計	43	40*3	83*3		
総計			男	155	152	307		
			女	89	79	168		
			計	252*3(1)	238*3	490*3(1)		

c 喫煙コントロール（喫煙抑制対策）に対して（Q21, Q22, Q23, Q24, Q27, SQ28, SQ29）

d 喫煙に関連する考え方に対して（Q25, Q26）

e 将来の自分の喫煙行動に対する予想（Q15）

## 3. 知識

a 喫煙の実態に関して（Q30, Q31）

b 喫煙が健康に及ぼす害に関して（Q32, Q33, Q34, Q35）

c 喫煙コントロール（喫煙抑制対策）に関して（Q36, Q37, Q38, Q39）

d 喫煙に関する教育および情報源（Q40, Q41）

## II. 結果

ここではまず、行動、態度、知識別に、その主な結果について述べる。次に、喫煙行動に関する質問項目と他の質問項目との関連性について検討した結果について述べることとする。

## A. 行動

## 1. 喫煙の経験

図1は、たばこを今までに1本でも吸ったことのある者の割合を性別・学年別に示したものである。これによれば、学年が進むにつれて喫煙を経験した者の割合は増加し、中学3年男子と高校2年男子では50%を超えている。また、女子においても、高校2年生では40%近くが喫煙を経験している。

## 2. 現在の喫煙行動

図2は、現在喫煙している者の割合を性別・学年別に示したものである。これによれば、学年が進むにつれて喫煙者率は増加する傾向にあり、中学3年男子と高校2年男子では約5人に1人は喫煙者である。

## 3. 周囲の人々の喫煙行動

表3および表4は、生徒の父親・母親の喫煙者率をそれぞれ示したものである。これによれば、中学生の母親の喫煙者率が、高校生の母親の喫煙者率に比べて高いことがわかる。

図3は、親しい友人5人の中に1人以上喫煙者がいる

生徒の割合を、図4は、友人から喫煙をすすめられた経験を持つ生徒の割合を示している。ともに学年が進むにつれて増加する傾向にある。

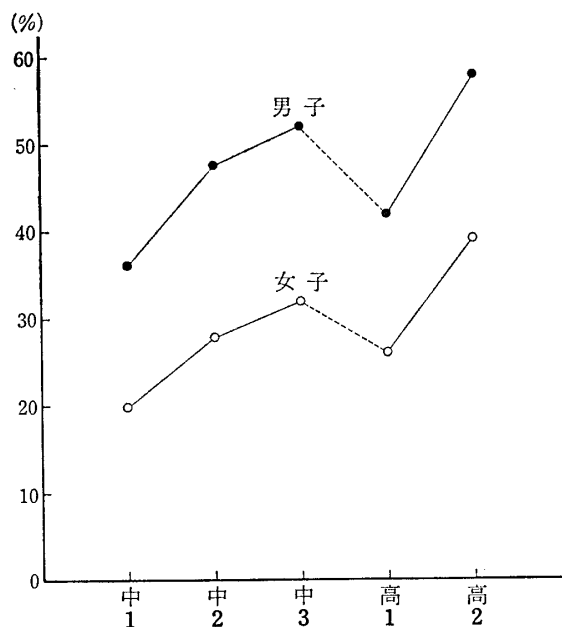


図1 喫煙経験者率

B. 態度

1. 家族の喫煙に対して

喫煙する父親を持つ生徒に対して、父親が喫煙していることについてどう感じているかをたずねたところ、中学生の場合、性別・学年別を問わず60%前後が「どちらかといえばいやである」あるいは「いやである」と回答した。高校生の場合、「どちらともいえない」という回答が約半分を占め、「どちらかといえばいやである」と

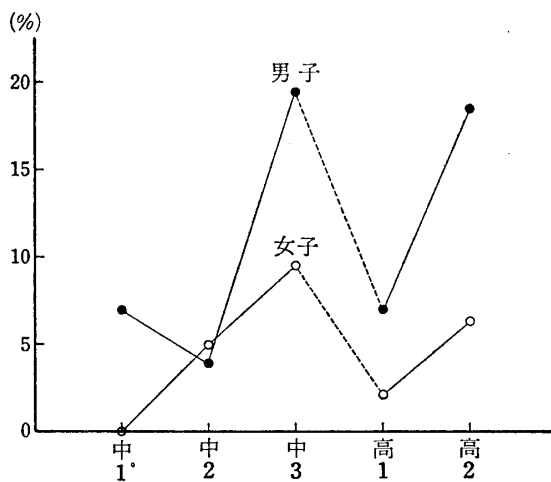


図2 喫煙者率

表3 父親の喫煙

喫煙する父親を持つ人数/回答者数：(%)

学 年	性 別		男 女 合 計
	男 子	女 子	
中 学 1 年 生	66/ 96(68.8)	60/ 88(68.2)	126/184(68.5)
中 学 2 年 生	63/ 98(64.3)	48/ 79(60.8)	111/177(62.7)
中 学 3 年 生	51/ 88(58.0)	52/ 84(61.9)	103/172(59.9)
(中 学 生 合 計)	180/282(63.8)	160/251(63.7)	340/533(63.8)
高 校 1 年 生	82/143(57.3)	52/ 82(63.4)	134/225(59.6)
高 校 2 年 生	88/145(60.7)	39/ 77(50.6)	127/222(57.2)
(高 校 生 合 計)	170/288(59.0)	91/159(57.2)	261/447(58.4)

表4 母親の喫煙

喫煙する母親を持つ人数/回答者数：(%)

学 年	性 別		男 女 合 計
	男 子	女 子	
中 学 1 年 生	21/ 98(21.4)	29/ 95(30.5)	50/193(25.9)
中 学 2 年 生	24/ 98(24.5)	12/ 80(15.0)	36/178(20.2)
中 学 3 年 生	17/ 88(19.3)	19/ 93(20.4)	36/181(19.9)
(中 学 生 合 計)	62/284(21.8)	60/268(22.4)	122/552(22.1)
高 校 1 年 生	21/149(14.1)	13/ 87(14.9)	34/236(14.4)
高 校 2 年 生	21/149(14.1)	6/ 77( 7.8)	27/226(11.9)
(高 校 生 合 計)	42/298(14.1)	19/164(11.6)	61/462(13.2)

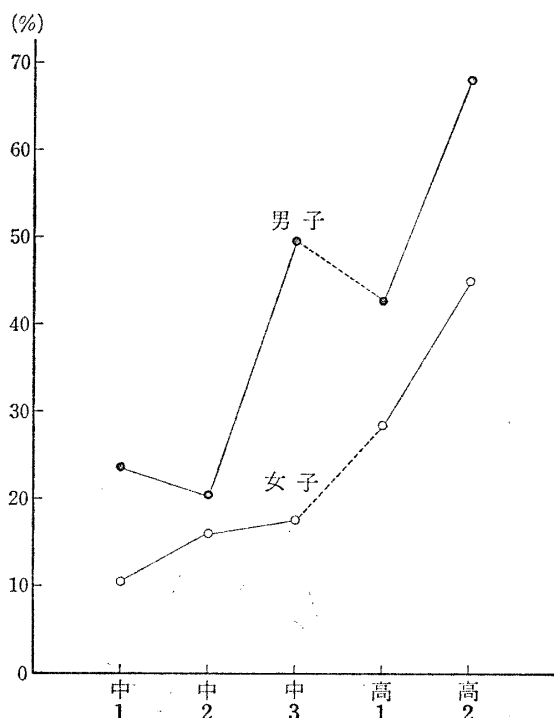


図3 友人の中に喫煙者がいる生徒の割合

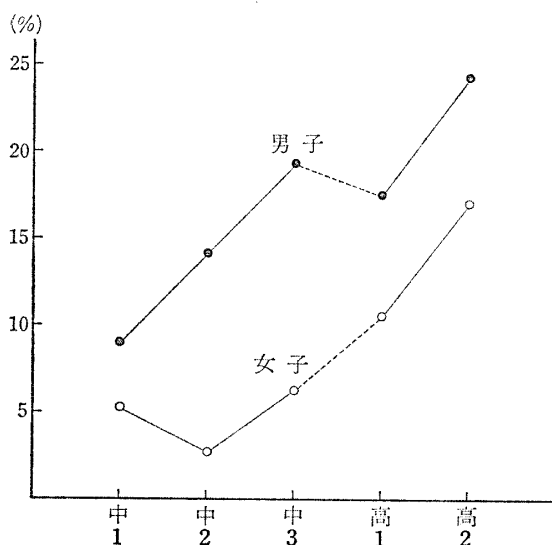


図4 友人から喫煙をすすめられた経験のある生徒の割合

いう回答と「いやである」という回答が残り二分した。

また、喫煙する母親を持つ生徒に対して、母親が喫煙していることについてどう感じているかをたずねたところ、中学男子の場合は約60%が、中学女子の場合は約70%が「どちらかといえばいやである」あるいは「いやである」と回答した。高校生の場合は70%前後が「どちらかといえばいやである」あるいは「いやである」と回答した。

2. 未成年者および成人の喫煙に対して

図5に、中学生、高校生、未成年者(20歳未満)、成人女子、成人男子それぞれの喫煙についてどう思うかという問いに対して、「悪いことである」あるいは「どちらかといえば悪いことである」と回答した者の割合を示した。これによれば、中・高校生を含む未成年者の喫煙に対しては厳しい態度を示すが、成人、とりわけ成人男子の喫煙に対しては寛容である。

3. 喫煙コントロール(喫煙抑制対策)に対して

図6~図9には、喫煙コントロール(喫煙抑制対策)に関する質問の結果を示した。たばこの自動販売機(図6)や宣伝・広告(図7)については、現状を肯定する者が多かった。一方、医療施設(図8)や列車内(図9)での喫煙については、現状より制限を強めることを望む者が多かった。

4. 喫煙に関連する考え方に対して

喫煙に関連する10の考え方(別添調査票Q25参照)に対する意見をたずねたところ以下の結果になった。

賛成の意見が80~90%を占めたのが、cの「喫煙は喫煙者のまわりにいる人に迷惑をかける」とeの「喫煙は健康上有害である」という考え方であった。

賛成の意見が半数近くを占めたのが、aの「喫煙はなかなかやめることのできない習慣である」とiの「教師はたばこを吸わない模範を示すべきである」という考え方であった。

「どちらともいえない」という意見が多かったのが、bの「親はたばこを吸わない模範を示すべきである」とgの「たばこの追放は、市民運動レベルで徹底する必要がある」という考え方であった。

反対の意見が50~60%を占めたのが、fの「たばこは一人前の男(女)としての1つのアクセサリである」とhの「喫煙にはよい面がある」という考え方であった。

反対の意見が60~80%を占めたのが、dの「すでに身につけてしまった習慣ならば、今さらたばこをやめる必要はない」とjの「国が売っているようなものが、それほど健康に悪いわけではない」という考え方であった。

5. 将来の自分の喫煙行動に対する予想

18歳になったら喫煙していると思うか、という質問に対しては、中学生、高校生の別を問わず、男子の20~30%、女子の10~15%が「きっと喫煙している」あるいは「ことによると喫煙している」と回答した。

20歳になったら喫煙していると思うか、という質問に対しては、中学生の場合は男子の約40%、女子の約20%が、高校生の場合は男子の約30%、女子の約10%が「きっと喫煙している」あるいは「ことによると喫煙してい

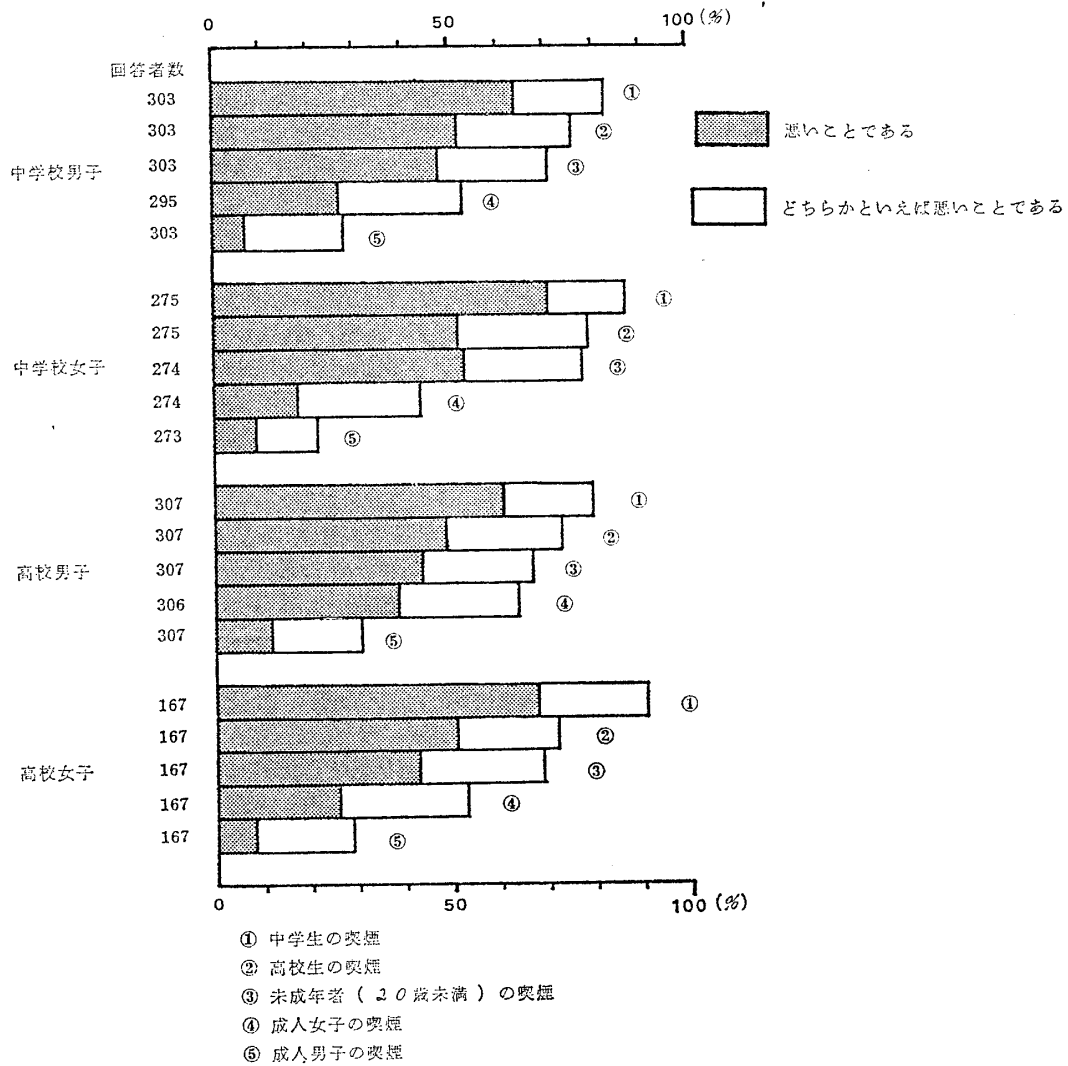


図5 中学生・高校生・未成年者・成人女子・成人男子の喫煙についてどう思いますか。

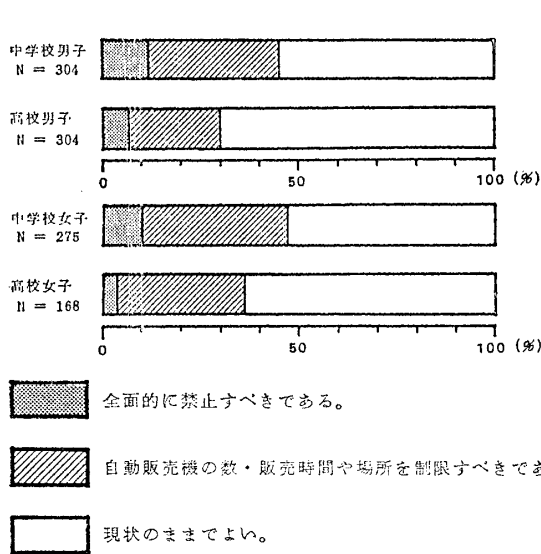


図6 たばこの自動販売機についてどう思いますか。

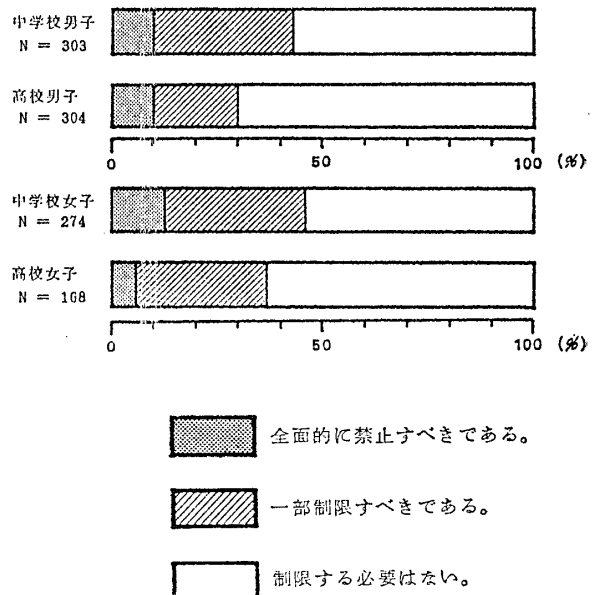


図7 たばこの宣伝・広告についてどう思いますか。

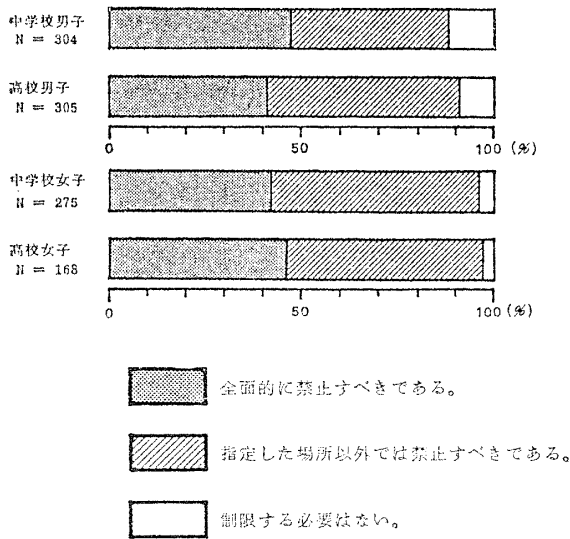


図8 病院・診療所などの医療施設での喫煙についてどう思いますか。

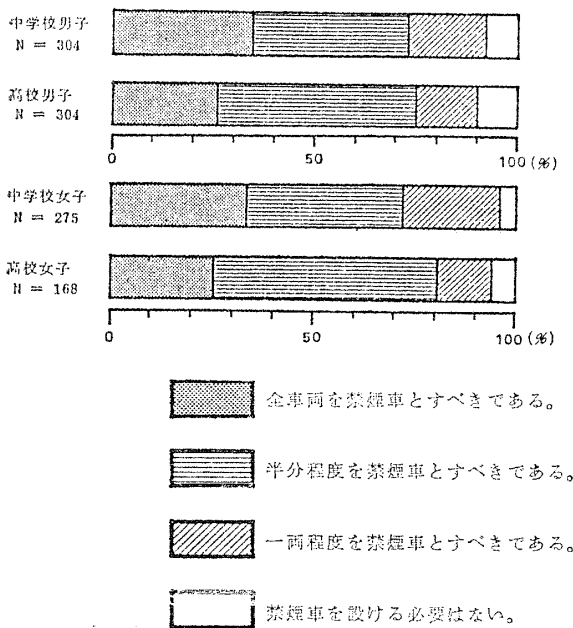


図9 新幹線などの中・長距離輸送機関の禁煙車についてどう思いますか。

る」と回答した。

C. 知識

1. 喫煙の実態に関して

日本人成人男子の喫煙者率については、中学生、高校生の別を問わず、過半数の者が、70~90%の値をあげた。一方、日本人成人女子の喫煙者率については、中学生、高校生の別を問わず、約半数の者が、30%以上50%未満の値をあげた。

また、列挙した6ヵ国中で日本の成人男女喫煙者率が

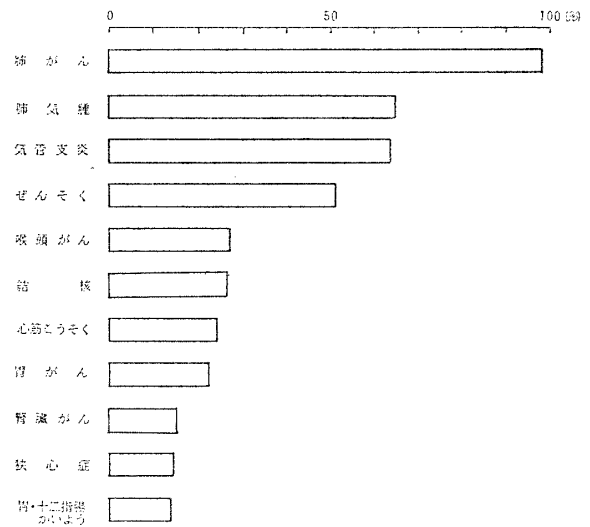


図10 喫煙関連疾患一関連ありとした者の比率(全学年・男女合計)

第何位であるかを推測させた結果は、日本人成人男子喫煙者率については、第2位ないし第3位と推測する者が多かった。一方、日本人成人女子喫煙者率については、男子生徒では第3位と推測する者が多く、女子生徒では第3位ないし第4位と推測する者が多かった。

2. 喫煙が健康に及ぼす害に関して

列挙した11の疾患について、喫煙と関連があると思うかたずねてみたところ、図10のような結果になった。

肺がんについてはほとんど全員が「関連あり」とし、肺気腫、気管支炎、ぜんそくなどの呼吸器系疾患がこれに次ぐ。他方、消化器系疾患や心疾患と喫煙が関連しているとする者は少なかった。

喫煙の長期的影響に関する6つの記述(別添調査票Q34参照)について、それぞれ正しいと思うかをたずねた結果によれば、5.の禁煙の効果に関する問題の正答率が約20%と低かったのを除けば、正答率は70%を超えていた。

急性の影響として、喫煙直後の血圧、脈拍、指先の皮ふ温、血液による酸素供給について、それぞれ3つの選択肢より正しいと思うもの1つを選ばせたところ、酸素供給についての正答率が最も高く約90%であった。他の3項目の正答率は概ね50%前後であった。

たばこ煙中の有害成分で知っているものを自由記述の形で列挙させた。ニコチンをあげた者が多く、次いでタール、一酸化炭素の順であった。シアン化水素やベンゾピレンをあげる者もいたがその数はわずかであった。図11には、ニコチン、タール、一酸化炭素について、性別・学年別に集計した結果を示した。性別に見ると3成分とも男子の回答率が高い。また学年別に見ると、ニコ



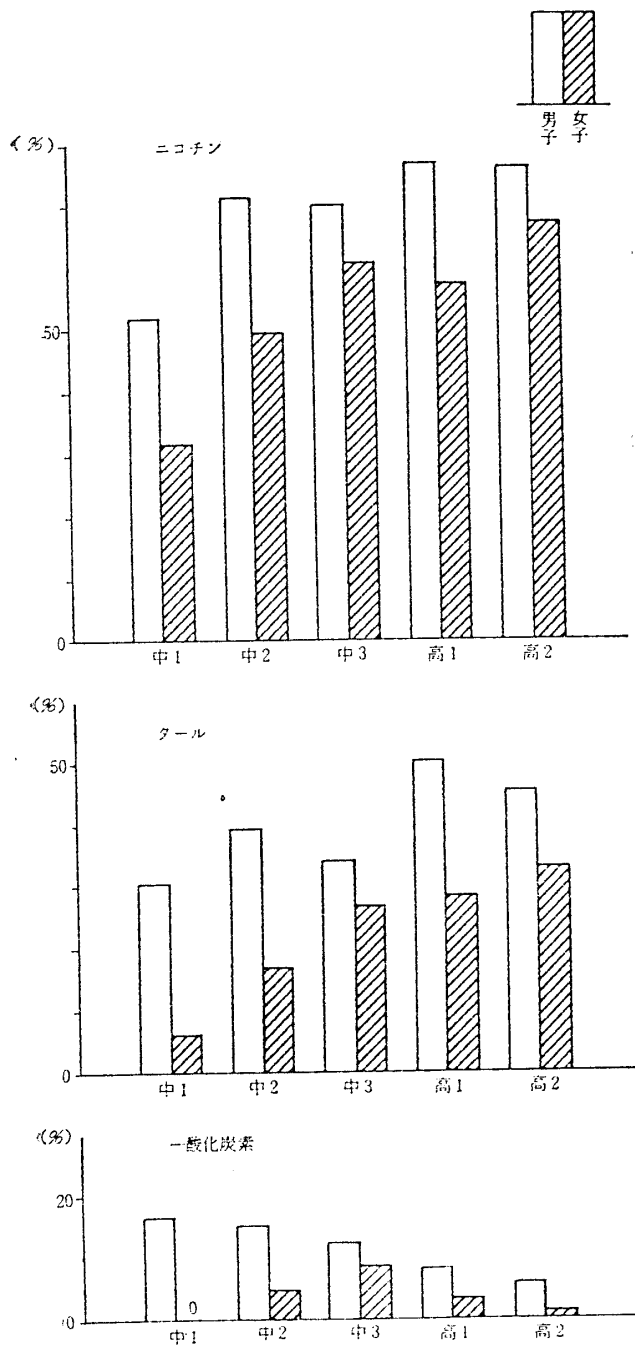


図11 たばこ煙中の有害成分

チンおよびタールについては学年が進むにつれて回答率は高くなるが、一酸化炭素については逆に学年が進むにつれて回答率が低くなる傾向が見られる。

3. 喫煙コントロール（喫煙抑制対策）に対して

日本および諸外国のたばこ外箱についている注意表示ないし危険表示の全文あるいは一部の訳文を列挙し（別添調査票 Q37 参照）、そのうちから日本のものを選ばせたところ、正解である5.の「健康のため、すいすぎに注意しましょう」を選んだ者が約90%と圧倒的に多く、次いで3.の「20歳未満の喫煙は法律で禁止されています」

を約80%の者が選んでいた。ちなみに3.は、専売公社の宣伝や広告の隅に載せられている一文である。

未成年者喫煙禁止法については、聞いたことがないとする者が約1/4いた（図12参照）。

嫌煙権運動については、中学生では80%以上の者が聞いたことがないと回答した。高校生になると、聞いたことのある者や内容について知っている者が増え、高校2年生でそれらの割合がほぼ半数に達した。

禁煙車両の数については、「1両」という正解を選んだ者は、中学1年女子が32%であったのを除けば、およそ50%前後であった。

4. 喫煙に関する教育および情報源

学校において喫煙に関する指導を受けた機会としては、保健の授業、学級活動やホームルーム、全校集会や学年集会があげられることが多かった。いずれにおいても、中学校2・3年次以降に実施されることが多い（表5参照）。

「喫煙と健康」に関する知識をどこから得たかという問いに対しては、中学生では家族（55%）、学校（51%）、ラジオ・テレビ（47%）、高校生では学校（64%）、新聞・雑誌（59%）、ラジオ・テレビ（58%）から得たとする者が多かった。

D. 行動と態度および知識等との関連

この節では、生徒の喫煙行動に関する質問項目と態度および知識等に関する質問項目の関連を分析した結果について述べる。

生徒の喫煙行動に関しては、Q42とSQ44に対する回答結果を用いて、(1)喫煙経験なし、(2)喫煙経験はあるが、現在は喫煙していない、(3)現在喫煙している、の3つに分け、順序尺度として扱った。態度に関する質問項目は、すべて順序尺度として扱った。知識に関しては、すべての回答を正答と誤答に分け、そのままの形、もしくは正答数の合計に変換して分析を行なった。

1. 生徒の喫煙行動と周囲の人々の喫煙行動との関連

表6に、生徒の喫煙行動とその父親の喫煙行動（別添調査票Q1参照）との関連を示した。父親が喫煙していない場合は、喫煙を経験している生徒（喫煙経験はあるが、現在は喫煙していない生徒と現在喫煙している生徒）の割合は28.9%であるのに対して、父親が喫煙している場合は、喫煙を経験している生徒の割合は43.3%と多くなっている。また、父親が以前は喫煙していたが今はやめている場合は、喫煙を経験している生徒の割合は37.5%で、他の2群の値の中間に位置している。

生徒の喫煙行動と母親の喫煙行動（Q4）との関連についても、父親の場合と同様に、母親が喫煙をしてい

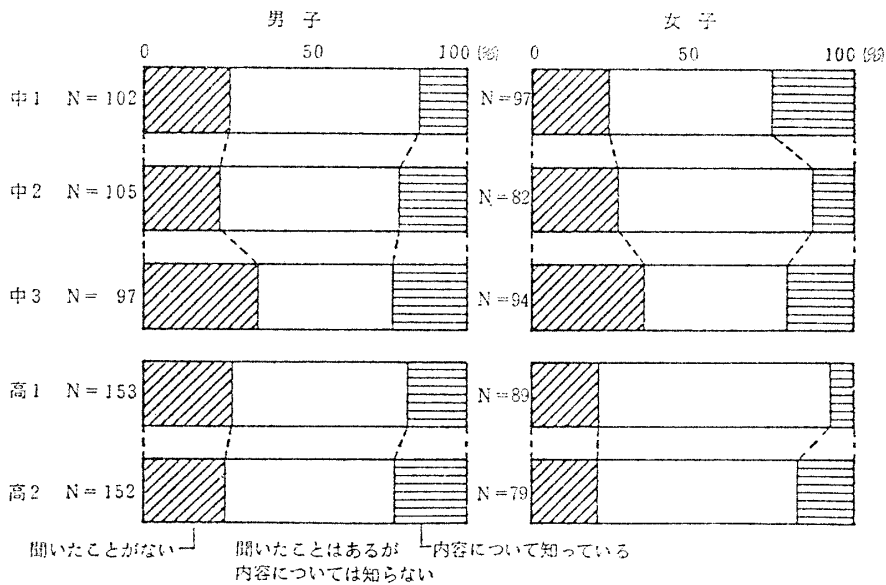


図12 未成年者喫煙禁止法について

表5 あなたはこれまでに学校で、喫煙に関する話を聞いたことがありますか。それはいつのことでしたか。

[複数回答] (%)

話を聞いた機会	小学校で					中学校で					高校で	
	中1	中2	中3	高1	高2	中1	中2	中3	高1	高2	高1	高2
保健の授業の中で聞いた。	15 (7.5)	9 (4.8)	7 (3.7)	17 (7.0)	10 (4.3)	44 (22.0)	67 (35.6)	116 (60.7)	137 (56.1)	103 (44.6)	110 (45.1)	77 (33.3)
学級活動やホームルームの時間に聞いた。	10 (5.0)	6 (3.2)	2 (1.0)	6 (2.5)	6 (2.6)	24 (12.0)	41 (21.8)	64 (33.5)	80 (32.8)	66 (28.6)	60 (24.6)	85 (36.8)
全校集会や学年集会のときに聞いた。	12 (6.0)	4 (2.1)	7 (3.7)	3 (1.2)	5 (2.2)	18 (9.0)	39 (20.7)	52 (27.2)	100 (41.0)	66 (28.6)	79 (32.4)	71 (30.7)
合計	200 (100.0)	188 (100.0)	191 (100.0)	244 (100.0)	231 (100.0)	200 (100.0)	188 (100.0)	191 (100.0)	244 (100.0)	231 (100.0)	244 (100.0)	231 (100.0)

表6 生徒の喫煙行動と父親の喫煙行動

人数：(%)

生徒の喫煙行動	父親の喫煙行動			計
	現在喫煙している	以前喫煙していた	喫煙していない	
喫煙経験なし	344 (56.7)	87 (62.6)	172 (71.1)	603 (61.0)
経験のみあり	203 (33.4)	44 (31.7)	54 (22.3)	301 (30.5)
現在喫煙	60 (9.9)	8 (5.8)	16 (6.6)	84 (8.5)
計	607 (100.0)	139 (100.0)	242 (100.0)	988 (100.0)

Tau C = -0.09 p < 0.05

表7 生徒の喫煙行動と友人の喫煙行動

人数：(%)

生徒の喫煙行動	友人の喫煙行動		計
	喫煙する友人はいない	喫煙する友人がいる	
喫煙経験なし	484 (73.8)	123 (35.1)	607 (60.3)
経験のみあり	165 (25.2)	149 (42.6)	314 (31.2)
現在喫煙	7 (1.1)	78 (22.3)	85 (8.4)
計	656 (100.0)	350 (100.0)	1,006 (100.0)

Tau C = 0.40 p < 0.05

表8 喫煙行動と未成年者の喫煙への態度 人数：(%)

生徒の喫煙行動	未成年者の喫煙は		どちらかといえばよい	どちらともいえない	どちらかといえば悪い	悪い	計
	よい	い					
喫煙経験なし	7 (25.0)		5 (41.7)	116 (43.3)	146 (57.7)	368 (73.9)	642 (60.6)
経験のみあり	3 (10.7)		3 (25.0)	108 (40.3)	91 (36.0)	120 (24.1)	325 (30.7)
現在喫煙	18 (64.3)		4 (33.3)	44 (16.4)	16 (6.3)	10 (2.0)	92 (8.7)
計	28 (100.0)		12 (100.0)	268 (100.0)	253 (100.0)	498 (100.0)	1,059 (100.0)

Tau C = -0.26  $p < 0.05$

表9 喫煙行動と成人男子の喫煙への態度 人数：(%)

生徒の喫煙行動	成人男子の喫煙は		どちらかといえばよい	どちらともいえない	どちらかといえば悪い	悪い	計
	よい	い					
喫煙経験なし	24 (42.9)		27 (47.4)	384 (58.7)	132 (68.8)	76 (76.8)	643 (60.8)
経験のみあり	11 (19.6)		24 (42.1)	215 (32.9)	53 (27.6)	20 (20.2)	323 (30.5)
現在喫煙	21 (37.5)		6 (10.5)	55 (8.4)	7 (3.6)	3 (3.0)	92 (8.7)
計	56 (100.0)		57 (100.0)	654 (100.0)	192 (100.0)	99 (100.0)	1,058 (100.0)

Tau C = -0.14  $p < 0.05$

る生徒において喫煙経験率が高かった。

また、以上の傾向は、生徒を男女別に分析した場合も同様に見られた。

表7に、生徒の喫煙行動とその友人の喫煙行動(Q48a)との関連を示した。喫煙する友人がいると回答した群において喫煙を経験している生徒の割合は64.9%であるのに対して、喫煙する友人はいないと回答した群においては26.3%と顕著な差がある。

## 2. 行動と態度との関連

表8に、喫煙行動と未成年者の喫煙に対する態度(Q18)との関連を示した。未成年者の喫煙を悪いことだと考えている群ほど、現在喫煙している生徒の割合は少なく、また、喫煙を経験している生徒(喫煙経験はあるが、現在は喫煙していない生徒と現在喫煙している生徒)の割合も少ない。

表9には、喫煙行動と成人男子の喫煙に対する態度

(Q19)との関連を示した。成人男子の喫煙を悪いことだと考えている群ほど、現在喫煙している生徒の割合は少なく、また、喫煙を経験している生徒の割合も少ない。喫煙行動と成人女子の喫煙に対する態度(Q20)との関連についても同様に成人女子の喫煙を悪いことだと考えている群ほど、現在喫煙している生徒の割合ならば喫煙を経験している生徒の割合は少なかった。

以上の点について男女別に分析した結果、それぞれの Kendall's 順位相関係数(Tau C)は、男子生徒の場合、成人男子の喫煙への態度とは-0.17、成人女子の喫煙への態度とは-0.06であり、女子生徒の場合、成人男子の喫煙への態度とは-0.11、成人女子の喫煙への態度とは-0.14となった。すなわち、生徒の喫煙行動は、異性の成人の喫煙への態度より同性の成人の喫煙への態度と高い相関をもっていた。

表10には、喫煙行動と病院、診療所などの医療施設で

表10 喫煙行動と医療施設での喫煙に対する態度  
人数：(%)

生徒の喫煙行動	医療施設での喫煙は全面的に禁止すべきである	指定した場所以外では禁止である	制限する必要はない	計
喫煙経験なし	304 (66.1)	309 (59.4)	30 (37.5)	643 (60.7)
経験のみあり	133 (28.9)	166 (31.9)	26 (32.5)	325 (30.7)
現在喫煙	23 (5.0)	45 (8.7)	24 (30.0)	92 (8.7)
計	460 (100.0)	520 (100.0)	80 (100.0)	1,060 (100.0)

Tau C=0.12 p<0.05

の喫煙に対する態度(Q23)との関連を示した。「制限する必要はない」と回答した群においては、現在喫煙している生徒ならびに喫煙を経験している生徒(喫煙経験はあるが、現在は喫煙していない生徒と現在喫煙している生徒)の割合は、「指定した場所以外では禁止すべきである」あるいは「全面的に禁止すべきである」と回答した群の場合よりも多い。

また、「たばこの自動販売機」(Q21)、「たばこの宣伝、広告」(Q22)、「中・長距離輸送機関の禁煙車」(Q24)など他の質問項目についても同様に、喫煙抑制対策に不賛成な群において、現在喫煙している生徒の割合、および喫煙を経験している生徒の割合が多いという傾向が認められた。

喫煙行動と喫煙に関連する考え方に関する意見(Q25)との関係のうちで特に相関の高い2組を表11と表12に示

表11 喫煙行動と「すでに身につけてしまった習慣ならば、今さらたばこをやめる必要はない」という意見に対する態度  
人数：(%)

生徒の喫煙行動	賛成	やや賛成	どちらともいえない	やや反対	反対	計
喫煙経験なし	13 (27.1)	14 (30.4)	133 (50.8)	213 (64.4)	260 (72.8)	633 (60.6)
経験のみあり	12 (25.0)	19 (41.3)	101 (38.5)	102 (30.8)	88 (24.6)	322 (30.8)
現在喫煙	23 (47.9)	13 (28.3)	28 (10.7)	16 (4.8)	9 (2.5)	89 (8.5)
計	48 (100.0)	46 (100.0)	262 (100.0)	331 (100.0)	357 (100.0)	1,044 (100.0)

Tau C=-0.24 p<0.05

表12 喫煙行動と「喫煙にはよい面がある」という意見に対する態度  
人数：(%)

生徒の喫煙行動	賛成	やや賛成	どちらともいえない	やや反対	反対	計
喫煙経験なし	23 (34.3)	57 (51.4)	148 (52.5)	131 (60.6)	268 (74.4)	627 (60.5)
経験のみあり	22 (32.8)	40 (36.0)	108 (38.3)	70 (32.4)	80 (22.2)	320 (30.9)
現在喫煙	22 (32.8)	14 (12.6)	26 (9.2)	15 (6.9)	12 (3.3)	89 (8.6)
計	67 (100.0)	111 (100.0)	282 (100.0)	216 (100.0)	360 (100.0)	1,036 (100.0)

Tau C=-0.21 p<0.05

表13 喫煙行動と「成人になった時の自分の喫煙行動に対する予想」

人数：(%)

成人になった時喫煙は 生徒の喫煙行動	きつとして いる	ことによる としている	どちらとも いえない	おそらくし ていない	きつとして いない	計
喫煙経験なし	30 (19.0)	49 (38.3)	105 (55.9)	159 (69.4)	297 (84.1)	640 (60.6)
経験のみあり	64 (40.5)	70 (54.7)	73 (38.8)	66 (28.8)	51 (14.4)	324 (30.7)
現在喫煙	64 (40.5)	9 (7.0)	10 (5.3)	4 (1.7)	5 (1.4)	92 (8.7)
計	158 (100.0)	128 (100.0)	188 (100.0)	229 (100.0)	353 (100.0)	1,056 (100.0)

Tau C = -0.42 p < 0.05

表14 喫煙行動と「あげることできた有害成分\*の数」

人数：(%)

生徒の喫煙行動	あげた有害成分の数				計
	0個	1個	2個	3個	
喫煙経験なし	269 (70.4)	193 (59.6)	150 (52.8)	32 (44.4)	644 (60.6)
経験のみあり	90 (23.6)	99 (30.6)	105 (37.0)	31 (43.1)	325 (30.6)
現在喫煙	23 (6.0)	32 (9.9)	29 (10.2)	9 (12.5)	93 (8.8)
計	382 (100.0)	324 (100.0)	284 (100.0)	72 (100.0)	1,062 (100.0)

Tau C = 0.14 p < 0.05

\*：タール，ニコチン，一酸化炭素以外の成分は，これをあげた生徒の数が極めて少ないので，ここでは除外した。

した。

表11からは、「すでに身につけてしまった習慣ならば，今さらたばこをやめる必要はない」という意見に賛成する群ほど，現在喫煙している生徒の割合，喫煙を経験している生徒（喫煙経験はあるが，現在は喫煙していない生徒と現在喫煙している生徒）の割合が多いことがわかる。表12からは、「喫煙にはよい面がある」という意見に賛成する群ほど，現在喫煙している生徒の割合，喫煙を経験している生徒の割合が多いことがわかる。

他の意見についても，喫煙に対して寛容な態度を示す群ほど，現在喫煙している生徒の割合や喫煙を経験している生徒の割合が多いという傾向が認められた。

表13には，喫煙行動と成人になった時の自分の喫煙行

動に対する予想（Q15b）との関連を示した。成人になった時に喫煙していると予想している群において，現在喫煙している生徒の割合や喫煙を経験している生徒の割合が多いことを示す強い相関が認められた。

### 3. 行動と知識との関連

喫煙関連疾患に関する質問項目(Q32)，急性影響に関する質問項目(Q33)，および長期的影響に関する質問項目(Q34)と喫煙行動との間には，いずれも有意な水準での関連は見出さなかった。有害成分についての質問項目(Q35)と喫煙行動との関係を調べた結果，有害成分を多くあげている群ほど，現在喫煙している生徒の割合および喫煙を経験している生徒の割合が多いという傾向が認められた(表14)。この点については，喫煙者が多い学校ほど喫煙に関する教育を行なわざるを得ないという可能性があることを考慮し，「喫煙と健康」に関する教育を行なったと回答した学校(表2参照)を除いた分析も行なったが，その場合も同様の結果であった。

## Ⅲ. 考 察

本研究では，中・高校生の喫煙行動を2つの側面から調査した。ひとつは喫煙経験であり，他のひとつが現在の喫煙行動である。

わが国の中・高校生の喫煙経験を調べたものとしては，安榮<sup>3)</sup>の中・高校生ならびに非行少年を対象とした研究(1970年)，富永ら<sup>4)</sup>の中学生を対象とした研究(1979年)などがある。

本研究の結果によると，例えば中学3年生の場合，男子は52.1%，女子は31.9%が喫煙を経験し，高校2年生の場合，男子は57.6%，女子は39.2%が喫煙を経験している。一方，安榮の調査によれば，中学3年男子37.3%，

女子18.7%、高校2年男子63.4%、女子22.4%が喫煙を経験し、また富永らの調査によれば、中学3年男子46.6%、女子16.6%が喫煙を経験している。これらの調査結果と比較すると、今回の場合は女子の喫煙経験者の割合が非常に多いことがわかる。

次に、現在の喫煙行動については、本研究では、中学3年男子の19.6%、女子の9.6%、高校2年男子の18.4%、女子の6.3%が、「現在喫煙している」と回答した。一方、安栄<sup>3)</sup>の調査によれば、中学3年男子の3.4%、女子の1.5%、高校2年男子の32.3%、女子の3.6%が「規則的に週1本以上喫煙している」と回答し、また富永ら<sup>4)</sup>の調査によれば、中学3年男子の5.9%、女子の1.2%が「週に1回以上喫煙している」と回答している。これらの結果と比較すると、今回の場合は中学生の喫煙者の割合が非常に多いことがわかる。

喫煙行動に関する調査は、生徒が本来喫煙することを禁じられている立場にあるだけに信頼のおける結果を得るのが難しい。そして、とりわけ現在の喫煙行動に関する質問の結果は、調査対象の喫煙問題に対する考え方、周囲の圧力などの影響を強く受けることが予想される。本研究の場合も、友人の喫煙行動に関する結果などからして、真の喫煙者率よりはやはり低目の数字になっているものと推測される。

喫煙への態度に関する結果のうちで特に顕著であったのは、未成年者の喫煙に対しては厳しい態度を示すが、成人、とりわけ成人男子の喫煙に対しては寛容である点である。

未成年者の喫煙に対して厳しく、成人男子の喫煙に対して寛容であることの背景としては、わが国では法律によって未成年者の喫煙が禁じられている一方、成人男子の喫煙者率が70%と極めて高率であることがあげられよう。また保健体育科教師に対する筆者らの調査<sup>2)</sup>でも明らかのように、現在の学校保健教育における喫煙指導が、ともかく子どものうちは喫煙させないようにする、という目標のもとに行なわれていることもその一因として考えられよう。

次に、喫煙に関する知識の面では、日本人成人男子の喫煙者率や列挙した6ヵ国中での順位については現状を比較的良好に把握しているが、成人女子の喫煙者率については30~50%の間、順位では第3位と、いずれも実際より高めに回答する者が多かった。原田<sup>5)</sup>が1981年に東京の高校生を対象に行なった調査でも、日本人の成人男女の喫煙者率をとるとともに8ヵ国中第2位と答えており、今回の結果と似た傾向がうかがえる。最近女子の喫煙が増加しているということが新聞等で取り上げられることも多

く、その影響もあるかもしれない。また、成人男子の喫煙よりも成人女子の喫煙に対する見方の方が厳しいということから、女子の喫煙場面に遭遇した場合にそれが目につき、実際以上に多くの成人女子が喫煙しているという感じを抱くということも考えられよう。

列挙した11の疾患について、喫煙と関連があると思うかたずねた結果によれば、肺がんに関する認知度が圧倒的に高かった。肺がんについては、調査票の他の質問項目中でもしばしば話題にしており、それが一因とも考えられる。しかしながら、中学生を対象に本調査とほぼ同じ方法で実施した富永ら<sup>4)</sup>の調査でも、中学生男子の90.2%、女子の88.6%が肺がんを喫煙関連疾患として認めていることから、肺がんに関する認知度の高さについては、議論の余地はないと考えてよいであろう。肺がん以外では、呼吸器系疾患についての認知度は比較的高いが、消化器系疾患や、近年大きな問題となり始めている心疾患と喫煙との関連について認識している者は少ない。現在中学校や高校で使用されている保健体育科教科書では心疾患について言及しているものが増えてはいるが、以前はあまり取り上げられていなかったことも影響しているかもしれない<sup>2)</sup>。

生徒の喫煙行動と彼らの両親や友人などの周囲の人々との喫煙行動との間には、正の相関が認められた。

青少年の喫煙が、周囲の人々の喫煙と強い関係を持っていることは、これまでも多くの調査で指摘されている。村松ら<sup>6)</sup>は、男子大学新入生を対象とした調査を行ない、対象者の喫煙行動と彼らの両親の喫煙行動との間に有意な関係が認められたとしている。また、中学生を対象とした富永ら<sup>4)</sup>の調査では、父親が喫煙している群、母親が喫煙している群の生徒の喫煙経験率は、それぞれの非喫煙群に比べて高いこと、喫煙する親友を多く持つ群ほど喫煙経験率は高いことが指摘されている。北アイルランドのグラマースクールおよび中等学校の生徒を対象とした McGuffin<sup>7)</sup>の調査によれば、対象者の喫煙行動と彼らの家族および友人の喫煙行動との関係を調べた結果、友人との関係が最も強かったとしている。

友人の喫煙との関係が強いことについては、McGuffinが指摘するように、友人の喫煙行動が影響を及ぼすという可能性とともに、似たような行動をとる者同士が仲間になることもその理由として考えられよう。

生徒の喫煙行動と喫煙に対する態度に関する質問項目との間にも高い相関が見られた。

喫煙行動と喫煙に対する態度との間に関係があることを示す研究はこれまでもいくつか見られる<sup>4), 8)</sup>。しかし、両者間に関係があることと因果性があることとは別

の問題である。また因果性を仮定するにしても、行動のありようが態度を決定すると考えるか、あるいは逆に態度が行動を規定すると考えるかによって、行動変容モデルは全く異なったものとなることが予想される。

生徒の喫煙行動と喫煙に関する知識の間にはほとんど関係を認めなかった。わずかに、有害成分を多くあげた群ほど喫煙者および喫煙経験者の割合が多いという傾向が見られたに過ぎない。

富永ら<sup>4)</sup>の調査では、喫煙経験者の方が未経験者に比べて、胃がんやぜんそくなどの喫煙関連疾患についての認知度が高いという結果が得られた。一方、幅広い保健領域において知識と行動の関係について調べた McGuffin<sup>9)</sup>の調査では、喫煙を含む多くの項目で、知識得点が高いほど好ましい保健行動をとることが示された。

以上のように本研究を含めてこれまで得られた調査結果から、喫煙行動と知識の間には一定の関係があるかどうかを結論づけることは困難であるといえよう。

最後に、今回の調査結果をもとに、今後の喫煙に関する指導のあり方について若干の提言をしたい。

喫煙経験者率および喫煙者率の学年別変化を考慮すると、喫煙に関する指導はできるだけ早い時期、できれば小学校段階から始めることが望まれる。香川県の坂出市教育委員会は、小学校の児童を対象とした喫煙に関する指導計画をまとめ、昭和59年度からテスト的に実施する予定であるという<sup>10)</sup>。小学生に対して喫煙に関する指導を実施することについては、わが国の場合時期尚早であるとの意見も強いと思われる。しかし、外国たばこの輸入販売の自由化に伴い、たばこの宣伝や広告が一層強化され、年齢の別を問わず子どもたちは「好ましいたばこのイメージ」に取り囲まれている。こうした現状に対して行政的指導がほとんど期待できない以上、学校教育の中でできるだけ早期に有効な対策が講ぜられるべきであろう。

次に、喫煙を指導する際の目標について述べたい。生徒たちの喫煙に対する態度の中には、未成年者や女性の喫煙には厳しいが、成人男子の喫煙については寛容な傾向がうかがわれた。こうした態度が、これまでの喫煙に関する指導によって形成されたのか、あるいはまたわが国独特の未成年者喫煙禁止法の影響なのか、女性の喫煙をタブー視する風潮が反映しているのか、そのあたりは明らかでない。しかし、こうした態度が既に中・高校生の中に形成されているということは、喫煙抑制という見地からして好ましいことでないことは確かである。

喫煙に関する指導を試みようとする教師は、喫煙はすべての人にとって有害であるという基本的認識を持ち、

性別を問わず生涯にわたって吸わないようにさせるという目標のもとに教育を進めていく必要がある。

次に、教育内容の面からの提言を行ないたい。喫煙関連疾患の認知度についての結果によれば、肺がんについてはほとんどのものがこれを認めており、肺気腫などの慢性閉塞性肺疾患がこれに次いでいた。しかし、呼吸器系疾患以外の、例えば虚血性心疾患などと喫煙との関係についてはほとんど知らないことが明らかになった。喫煙と深い関係のある疾病として、肺がん以外にも多くの疾病があることを教えることは重要であると思われる。

最後に、教育方法の面からの提言を行ないたい。中・高校生の喫煙行動と彼らの友人の喫煙行動の間には強い関係があることが示された。仮に、友人の喫煙が中・高校生の喫煙行動に影響を与えるとすれば、そうした社会的圧力に対抗する技術について学ぶことも価値のあることであろう。

#### IV. 結 論

神奈川・埼玉・静岡・千葉・東京の中・高校生の喫煙に関する行動、態度、知識などについて質問紙による調査を行ない、以下の結果が得られた。

- 1) 全体のうち40%は喫煙を経験しているが、現在習慣的に喫煙している者は8%であった。
- 2) 未成年者の喫煙に対しては71%の者が否定的な態度をとっていたが、成人男子の喫煙に対して否定的な態度をとるものは28%にすぎなかった。
- 3) ほとんどの者は喫煙と肺がんの関連性を認めていたが、慢性閉塞性肺疾患についての認知度はこれより低く、虚血性心疾患と関係があることについて知っている者は極めて少なかった。
- 4) 対象者の喫煙行動と彼らの両親や友人の喫煙行動の間には関係が認められた。

#### 謝 辞

調査票の作成、調査の実施に際し、以下の方々の御協力を得たので、ここに感謝の意を表する。

早野 清氏 (川崎市教育委員会)  
村井 守氏 (川崎市教育研究所)  
斉藤治俊氏 (国立中央青年の家)  
関根正久氏 (埼玉県新座北高校)  
柴若光昭氏 (東京大学教育学部)

また、調査の趣旨を理解され、快く協力くださった調査対象校の先生方に深謝し、本論文の結びとしたい。

## 参考文献

- 1) 厚生統計協会 1984 国民衛生の動向.
- 2) 川畑徹朗・黒羽弥生・高橋浩之・高石昌弘 1983 学校保健教育における「喫煙と健康」に関する教育についての研究東京大学教育学部紀要, 第22巻 pp. 141~170.
- 3) 安栄鉄男 1970 中学生, 高校生ならびに非行少年についての喫煙に関する調査研究, 学校保健研究, 第12巻第10号, pp. 465~474.
- 4) 富永祐民・小川 浩 1981 中学生の喫煙行動および喫煙に対する態度と知識 昭和55年度健康づくり等調査研究報告書 pp. 219~232.
- 5) 原田幸男 1982 たばこに関する調査—健康との関連から—健康教室, 第33巻第10号, pp. 36~40.
- 6) 村松常司・森田 稔・村松園江・小島淳仁・高橋邦郎・伊藤 章 1976 喫煙の経験, 習慣に影響を及ぼす諸要因の研究第2報 男子大学新入生について, 学校保健研究, 第18巻第1号, pp. 34~39.
- 7) McGuffin, S.J. 1982 Smoking—the knowledge and behaviour of young people in Northern Ireland *Health Education Journal*, 41, 53-59.
- 8) Pederson, L.L. and Lefcoe, N.M. 1982 Multivariate analysis of variables related to cigarette smoking among children in grades four to six *Canadian Journal of Public Health*, 73, 172-175.
- 9) McGuffin, S.J. 1979 Health knowledge and behaviour of fifth-formers *Health Education Journal*, 38, 107-110.
- 10) 読売新聞 1984年5月23日.



3	1	0	1	-	☒	6		7		8		9		10		11	
---	---	---	---	---	---	---	--	---	--	---	--	---	--	----	--	----	--

## 喫 煙 に 関 す る 調 査

— お ね が い —

この調査は、東京大学教育学部健康教育学研究室によって行われているものです。

記入しおわたった調査用紙は、用意した箱にみなさん自身で直接入れるようになっています。したがって、先生など他の人がみなさんの回答を見ることは決してありません。注意事項をよく読んで、各質問に率直に答えてください。

みなさんのご協力をお願いします。

### 注 意 事 項

1. 質問にはできるだけ速やかに答えてください。回答に迷って時間を費やさず、最初に頭に浮かんできたものを回答してください。すべての問題を30分以内に終えるようにしてください。
2. 質問の中には似ているものもいくつかありますが、厳密には同じ質問はひとつもありません。
3. 回答を進めていく途中で指示がありますが、自分にあてはまる指示に従ってください。
4. 問題はほとんどが、あてはまるもの 1つあるいはすべての数字に○をつけるようになっています。「その他」に○をつけた人は、( )内に具体的に記入してください。
5. ( )内には数字を、( )内には語あるいは文を記入してください。
6. 各ページの右はしに印刷してある小さな□には、なにも書き込まないでください。
7. この注意事項について、あるいは回答を進めていく途中わからないことがあったら、手をあげて、先生の指示を待ってください。
8. 先生の合図があったら、まず以下の学校名などを記入してください。もれなく記入し終わったら次のページへ進み、Q 1から順に答えていってください。

学校名

	) 中 学 校
	) 高 等 学 校

学年・組

	) 年		) 組
--	-----	--	-----

12	13	14
15	16	17

性 別

1. 男    2. 女

18
19
☒



Q 7. あなたのお兄さんは喫煙していますか。(お兄さんがいない場合は、両方の〔 〕に0と記入してください。)

お兄さんの人数 [ ]人

27 28  
□ □

喫煙しているお兄さんの人数 [ ]人

SQ 8. 喫煙しているお兄さんがいる人にたずねます。

あなたは、お兄さんが喫煙していることについてどう感じますか。

1つだけに○をつけてください。

- |              |                  |
|--------------|------------------|
| 1. 好感をもつ     | 2. どちらかといえば好感をもつ |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえばいやである |
| 5. いやである     |                  |

29  
□

SQ 9. 喫煙していないお兄さんがいる人にたずねます。

あなたは、お兄さんが喫煙していないことについてどう感じますか。

1つだけに○をつけてください。

- |              |                  |
|--------------|------------------|
| 1. 好感をもつ     | 2. どちらかといえば好感をもつ |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえばいやである |
| 5. いやである     |                  |

30  
□

Q 10. あなたのお姉さんは喫煙していますか。(お姉さんがいない場合は、両方の〔 〕に0と記入してください。)

お姉さんの人数 [ ]人

31 32  
□ □

喫煙しているお姉さんの人数 [ ]人

SQ 11. 喫煙しているお姉さんがいる人にたずねます。

あなたは、お姉さんが喫煙していることについてどう感じますか。

1つだけに○をつけてください。

- |              |                  |
|--------------|------------------|
| 1. 好感をもつ     | 2. どちらかといえば好感をもつ |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえばいやである |
| 5. いやである     |                  |

33  
□

SQ 12. 喫煙していないお姉さんがいる人にたずねます。

あなたは、お姉さんが喫煙していないことについてどう感じますか。

1つだけに○をつけてください。

- |              |                  |
|--------------|------------------|
| 1. 好感をもつ     | 2. どちらかといえば好感をもつ |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえばいやである |
| 5. いやである     |                  |

34  
□

35  
☒

Q13. あなたは、成人男子(20歳以上)の喫煙についてどう感じますか。1つだけに○をつけてください。

1. 好感をもつ
2. どちらかといえば好感をもつ
3. どちらともいえない
4. どちらかといえばいやである
5. いやである

36

Q14. あなたは、成人女子(20歳以上)の喫煙についてどう感じますか。1つだけに○をつけてください。

1. 好感をもつ
2. どちらかといえば好感をもつ
3. どちらともいえない
4. どちらかといえばいやである
5. いやである

37

Q15. 次のa, bについて、あてはまるものをそれぞれ1つずつ選び、○をつけてください。

a. あなたは18歳になったら喫煙していると思いますか。

1. きっと喫煙している
2. ことによると喫煙している
3. どちらともいえない
4. おそらく喫煙していない
5. きっと喫煙していない

38

b. あなたは成人(20歳)になったら喫煙していると思いますか。

1. きっと喫煙している
2. ことによると喫煙している
3. どちらともいえない
4. おそらく喫煙していない
5. きっと喫煙していない

39

40

Q16. 中学生の喫煙についてどう思いますか。 1つだけに○をつけてください。

1. よいことである
2. どちらかといえばよいことである
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば悪いことである
5. 悪いことである

41

Q17. 高校生の喫煙についてどう思いますか。 1つだけに○をつけてください。

1. よいことである
2. どちらかといえばよいことである
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば悪いことである
5. 悪いことである

42

Q18. 未成年者(20歳未満)の喫煙についてどう思いますか。 1つだけに○をつけてください。

1. よいことである
2. どちらかといえばよいことである
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば悪いことである
5. 悪いことである

43

Q19. 成人男子(20歳以上)の喫煙についてどう思いますか。 1つだけに○をつけてください。

1. よいことである
2. どちらかといえばよいことである
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば悪いことである
5. 悪いことである

44

Q20. 成人女子(20歳以上)の喫煙についてどう思いますか。 1つだけに○をつけてください。

1. よいことである
2. どちらかといえばよいことである
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば悪いことである
5. 悪いことである

45

46

Q21. たばこの自動販売機についてどう思いますか。 1つだけに○をつけてください。

1. 全面的に廃止すべきである
2. 自動販売機の数, 販売時間や場所を制限すべきである
3. 現状のままでよい

47

Q22. たばこの宣伝, 広告についてどう思いますか。 1つだけに○をつけてください。

1. 全面的に禁止すべきである
2. 一部制限すべきである
3. 制限する必要はない

48

Q23. 病院, 診療所<sup>しんりょうじよ</sup>などの医療施設での喫煙についてどう思いますか。 1つだけに○をつけてください。

1. 全面的に禁止すべきである
2. 指定した場所以外では禁止すべきである
3. 制限する必要はない

49

Q24. 新幹線などの中・長距離輸送機関の禁煙車についてどう思いますか。 1つだけに○をつけてください。

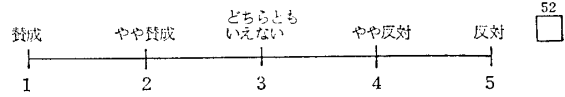
1. 全車両を禁煙車とすべきである
2. 半分程度を禁煙車とすべきである
3. 1両程度を禁煙車とすべきである
4. 禁煙車をもうける必要はない

50

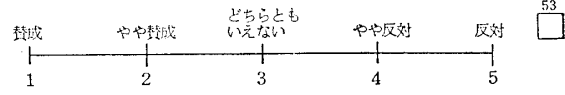
51

Q25. 喫煙に関する以下の考え方に対してあなたの意見をたずねます。a から j の考え方に対してあなたの意見をそれぞれ1つずつ選び、○をつけてください。

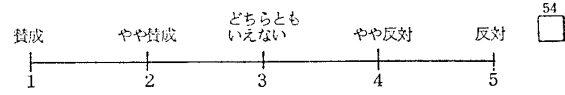
a. 喫煙はなかなかやめることのできな  
い習慣である。



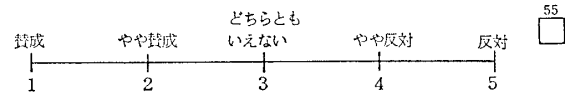
b. 親はたばこを吸わない<sup>もはん</sup>模範を示すべきである。



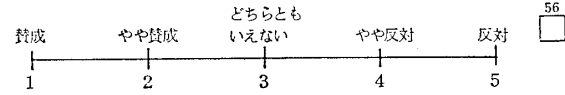
c. 喫煙は喫煙者のまわりにいる人に迷惑をかける。



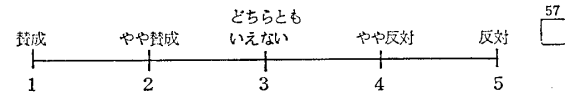
d. すでに身につけてしまった習慣ならば、今さらたばこをやめる必要はない。



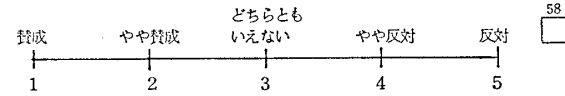
e. 喫煙は健康上有害である。



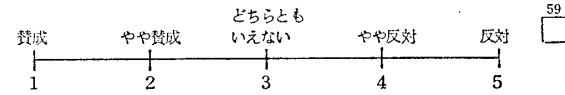
f. たばこは一人前の男(女)としての1つのアクセサリーである。



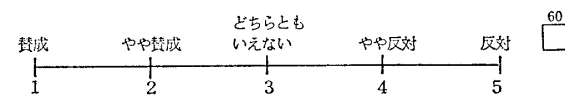
g. たばこの追放は、市民運動レベルで徹底する必要がある。



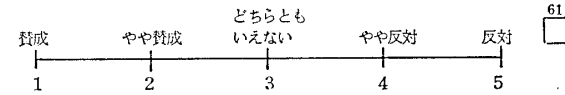
h. 喫煙にはよい面がある。



i. 教師はたばこを吸わない<sup>もはん</sup>模範を示すべきである。



j. 国が売っているようなものが、それほど健康に悪いわけではない。



62

Q26. あなたは次の考えに同意しますか。次の a から c について、あてはまるものをそれぞれ1つずつ選び、○をつけてください。

- a. わたしも肺がんになる可能性がある。 63   

同意する	ほぼ同意する	どちらとも いえない	あまり 同意しない	同意しない
1	2	3	4	5
  
- b. 肺がんは恐ろしい病気である。 64   

同意する	ほぼ同意する	どちらとも いえない	あまり 同意しない	同意しない
1	2	3	4	5
  
- c. たばこを吸わなければ肺がんになる  
可能性は少ない。 65   

同意する	ほぼ同意する	どちらとも いえない	あまり 同意しない	同意しない
1	2	3	4	5

Q27. あなたは、専売公社のたばこの宣伝、広告（雑誌・テレビその他）を見たことがありますか。どちらかに○をつけてください。

- 1. ある 66
- 2. ない

☆ Q27 で 1. の「ある」に○をつけた人だけ答えてください。

SQ 28. あなたはその宣伝、広告に対してどう感じましたか。1つだけに○をつけてください。

- 1. 好感をもった 67
- 2. どちらかといえば好感をもった
- 3. どちらともいえない
- 4. どちらかといえば好感がもてなかった
- 5. 好感がもてなかった

SQ 29. 宣伝、広告を見て、あなたは喫煙に対してどう思いましたか。1つだけに○をつけてください。

- 1. とても喫煙したい気持になった 68
- 2. 少し喫煙したい気持になった
- 3. どちらともいえない
- 4. あまり喫煙したい気持にならなかった
- 5. まったく喫煙したい気持にならなかった



Q30. 日本の成人男女の喫煙者率(たばこを吸っている人の割合)は、1981年現在で何パーセントぐらいだと思いますか。

男子 およそ( )% 女子 およそ( )%

12	13	14
15	16	17

Q31. 次にあげる6ヶ国の成人の喫煙者率をくらべたとき、日本は高い方から第何位になると思いますか。( )内に数字を記入してください。男子 第( )位 女子 第( )位

アメリカ, イギリス, フランス, スウェーデン, ソ連, 日本

18	19
----	----

Q32. 次にあげる病気のうち、喫煙が原因となったり、喫煙と関連が深いと思われるものすべてに○をつけてください。これ以外に喫煙に関連があると思う病気があれば( )内に記入してください。

- |            |         |                |         |
|------------|---------|----------------|---------|
| 1. 喉頭がん    | 2. 肺がん  | 3. 胃がん         | 4. 腎臓がん |
| 5. 気管支炎    | 6. ぜんそく | 7. 結核          | 8. 肺気腫  |
| 9. 心筋こうそく  | 10. 狭心症 | 11. 胃・十二指腸かいよう |         |
| 12. その他( ) |         |                |         |

20	21	22	23
24	25	26	27
28	29	30	
31	32	33	

Q33. たばこを吸ったすぐあとに、からだの状態はどうなるでしょう。次のaからdについて、( )内で正しいと思うものをそれぞれ1つずつ選び、○をつけてください。

- a. 血圧は( 1. 下がる 2. 上がる 3. 変わらない)。
- b. 脈は( 1. 遅くなる 2. 速くなる 3. 変わらない)。
- c. 指先の皮ふ温は( 1. 下がる 2. 上がる 3. 変わらない)。
- d. 血液によって全身へ送られる酸素の量は( 1. 減る 2. 増える 3. 変わらない)。

34
35
36
37

Q34. 次にあげる喫煙に関する話のうち、正しいと思うものすべてに○をつけてください。

- 吸うたばこの本数が多い人ほど、肺がんの発生率が高い。
- 妊娠中にたばこを吸っていると、流産や死産の率が高くなる。
- たばこを吸いはじめる年齢の早い遅いと、肺がんへのかかりやすさとは関係がない。
- 自分自身はたばこを吸わなくても、夫が吸っている女性は、夫もたばこを吸わない女性にくらべて、肺がんの死亡率が高い。
- たばこを吸うのをやめて10年以上たった人の肺がん死亡率と、もともとたばこを吸わない人の肺がん死亡率とは、ほとんど差がない。
- 妊娠している人がたばこを吸うと、胎児の発育がさまたげられることがある。

38
39
40
41
42
43

Q35. たばこの煙の中にある有害成分として知っているものがあれば、すべて書いてください。

( )

44	45	46	47
----	----	----	----

Q36. 現在、東海道新幹線ひかり号には、1列車(16両)につきどのくらい禁煙車両がついていのでしょうか。1つだけ選んで○をつけてください。

- まったくついていない
- 1両ついている
- 8両ついている
- 16両ついている

48
49

Q37. 下にあげたのは、世界各国の、たばこの外箱についている注意表示です。このうち、日本のたばこの外箱についていると思うものすべてに○をつけてください。

- 1. 喫煙はあなたの健康をひどく害する可能性があります。  50
- 2. すいすぎは危険です。  51
- 3. 20歳未満の喫煙は法律で禁止されています。  52
- 4. 喫煙量が増すほど健康への危険が増大します。煙を深くすいこまないようにしましょう。  53
- 5. 健康のため、すいすぎに注意しましょう。  54
- 6. 喫煙は健康上有害です。  55

Q38. あなたは「<sup>けんえんけん</sup>嫌煙権運動」について知っていますか。あてはまるものを1つだけ選んで○をつけてください。

- 1. 聞いたことがない  56
- 2. 聞いたことはあるが、内容については知らない
- 3. 内容について知っている

Q39. あなたは「未成年者喫煙禁止法」について知っていますか。あてはまるものを1つだけ選んで○をつけてください。

- 1. 聞いたことがない  57
  - 2. 聞いたことはあるが、内容については知らない  58
  - 3. 内容について知っている
- ↓  
80  
 2

Q40. あなたはこれまでに学校で、喫煙に関する話を聞いたことがありますか。次にあげるものの中であてはまるものの数字すべてに○をつけてください。またそれはいつのことでしたか。それぞれについて( )の中であてはまるものすべてを○でかこんでください。(たとえば小学校・中学校の両方で受けた場合、両方に○をつける。)

- 1. 保健の授業の中で聞いた。(小学校, 中学校, 高等学校)  12  13  14  15
- 2. 道徳の時間に聞いた。(小学校, 中学校, 高等学校)  16  17  18  19
- 3. 学級活動やホームルームの時間に聞いた。(小学校, 中学校, 高等学校)  20  21  22  23
- 4. 全校集会や学年集会のときに聞いた。(小学校, 中学校, 高等学校)  24  25  26  27
- 5. 先生から個人的に聞いた。(小学校, 中学校, 高等学校)  28  29  30  31
- 6. その他 ( )  32  33  34
- 7. まったく聞いたことがない  35
- 8. おぼえていない  36

Q41. あなたは「喫煙と健康」に関する知識をどのようなところから得ましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1. 学校  37  38  39
- 2. 家族  40  41  42
- 3. 友人・先輩  43  44  45  46
- 4. 新聞・雑誌  47
- 5. ラジオ・テレビ
- 6. パンフレット・ポスター
- 7. その他 ( )
- 8. ない

Q42. たばこを今までに1本でも吸ったことがありますか。どちらかに○をつけてください。

1. ある  
2. ない

48

☆Q42で1の「ある」に○をつけた人だけ教えてください。

SQ43. 初めて喫煙したのは何歳の時ですか。

( )歳

49 50

SQ44. 現在は喫煙していますか。どちらかに○をつけてください。

1. 喫煙している  
2. 喫煙していない

51

☆SQ44で1の「喫煙している」に○をつけた人だけ教えてください。

SQ45. ここ1週間で何本ぐらい吸いましたか。

( )本

52 53 54

SQ46. あなたが喫煙しているもっとも大きな理由はなんですか。

( )

55 56 57

☆SQ44で2の「喫煙していない」に○をつけた人だけ教えてください。

SQ47. あなたが喫煙していないもっとも大きな理由はなんですか。

( )

58 59 60

Q48. あなたの親しい友人5人を思い浮かべてください。

- a. その5人のうち何人が現在喫煙していますか。 ( )人  
b. その5人のうち何人があなたに喫煙をすすめたことがありますか。 ( )人

61

62

63

↓

80  
3